

放課後子ども教室

自治体名

岩手県気仙郡住田町

学校数

小学校 1校 中学校 1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

東日本大震災により被災した隣接沿岸部より内陸部にあり、被害がなかった当町に多くの児童生徒が転入し、町内に建築した仮設住宅等から通うようになった。仮設住宅数は、89戸である。

＜取組名＞

『公民館での放課後子ども教室』

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	2	—	計400回	下有住地区公民館 上有住地区公民館

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○	○	○		()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

＜取組の内容を具体的に記載＞

放課後における児童生徒の居場所事業

(1) 学び教室(常時開設)

○宿題・読書・学習プリント(漢字・計算等)

(2) 体験教室(夕涼み会・掃除ボランティア・もちつき・みずき団子づくり・森のつみ木広場・クリスマス会・押し花体験)

○交流体験(愛知学院大生との交流・子育てサークルとの交流)

○スポーツ体験(スポーツチャンバラ教室・クップ教室・クップ大会・ポッチャ教室)

○自然体験(五葉山山麓散策)

○視聴覚教室(ビデオ・DVDの定期・特別映画上映)等



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

仮設住宅が設置されたことにより、本町は被災した方と被災していない方が混在する状態となった。仮設住宅に入居した子ども達は、震災による影響や慣れない土地での生活によるストレスなどから、子ども教室において、しばしば言動が粗暴になる場面がみられ、安全管理員が対応に苦慮したり、被災していない地元の方との間に軋轢が生じ、地元の利用者が減少したりする状況も見られた。被災した子ども達も被災していない子ども達も、安心して過ごすことができる居場所の確保が必要である。

◇住民等からの要望・必要な取組

少子化に係る課題解決のため、子育てしやすい環境を町全体で整えること、また、子どもの頃から地域と関わることで郷土愛を育み、住田町のこれからの担う人材を育む必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・町教育委員会 ～ 実施主体
- ・公民館関係者、児童館関係者 ～ 安全管理員と共に子ども達に学習支援や遊びの提供
- ・学校 ～ 活動内容の依頼、協力・連携、児童生徒への周知

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・教育委員会職員と子ども教室の安全管理員が月1回打ち合わせをする機会(合同会議)を設け、子ども教室の運営について情報共有を図った。
- ・定期的に心理療法士に子ども教室に入ってもらい、子ども達の様子を見ていただくと共に、安全管理員のサポート体制の充実も図った。
- ・「乱暴な言葉は遣わない」など、子ども教室を利用する上でのルールを再確認し、子ども達だけではなく、保護者へも周知した。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・安全で安心な子ども達の居場所を確保することができた。
- ・学習や体験活動、異年齢集団での遊び等の機会を提供し、児童生徒が家庭の事情に関係なく放課後を有意義に過ごすことができる体制を整備できた。
- ・合同会議の実施により、子ども教室の状況を確認し、改善しながら事業を展開することができた。
- ・心理療法士が安全管理員をサポートする体制が確立し、きめ細かい運営ができた。
- ・子ども教室のルールを再確認、周知、徹底し、誰もが気持ちよく利用できる居場所を目指したことで、地元の利用者も増えてきている。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

- ・平成25年度において、上有住子ども教室(200日開催)では、のべ9,875人(約49人/日)の小学生、有住小学校児童(89人)の約55%、下有住子ども教室(200日開催)では、のべ1,408人(約7人/日)の小学生、下有住地区児童(32人)の約22%が利用し、安全で安心な居場所として定着している。

◇課題や今後の展望

- ・仮設住宅に隣接する子ども教室では、しばしば安全管理員が対応に困る行動をする子どもが見られ、心理療法士の先生に定期的に子ども教室を見ていただき、安全管理員にアドバイスをいただいた。今後も継続的に子ども達の様子を見ながら、子ども達が安心して過ごすことができる居場所の確保に努めたい。
- ・今まで以上に、地域住民と子ども達が関わりを持てるような事業を工夫していきたい。